

Community Welfare Total Care Promotion Project

トータルケアNEWS

20 2007.6.20

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5
TEL 018-864-2711 FAX 018-864-2701
URL <http://www.akitakenshakyō.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyō.or.jp

CONTENTS

【特集】

由利本荘市社会福祉協議会における
トータルケアの取り組み …… 1~6

【特集】由利本荘市社会福祉協議会でのトータルケア取り組みについて

トータルケアで普遍性と個別性の双方の追求を

由利本荘市社会福祉協議会由利支所 吉泉 聡

1. 担当者会議の取り組み

平成17年3月22日、由利本荘市の誕生と時を同じくし、本荘市、矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町、鳥海町の社協が合併して、由利本荘市社協が誕生した。それと同時に本所と旧市町ごとの8支所の事務局体制をとり今日まで2年3ヶ月が経過したが、由利本荘市社協の地域福祉実践の中核としてトータルケア推進事業を位置づけ、段階的に取り組む社協として17年度には本荘、由利、東由利、西目の4支所で、18年度には矢島、岩城、大内、鳥海の4支所で着手した。

17年度に着手した4支所のコミュニティソーシャルワーカーは最初の養成研修を受講した際にトータルケア推進事業を理解し各地域で実践するためには情報交換しながら共通する課題について一緒に取り組む必要性を痛感した。そこで、地域福祉トータルケア推進事業担当者会議を立ち上げ、本所の担当職員も交えて17年度は9回開催した。そこでは各地域の実践状況の情報交換に留まらず、京都市上京区春日住民福祉協議会、滋賀県能登川町、東京都内社協への視察や4地域のサポート運営委員会合同研修会の開催などにも取り組んだ。また、県社協の佐々木地域福祉部長や担当の鈴木主任にも積極的に出席いただき、多くの助言を受ける事ができたことも大変有意義であった。

18年度に入りすべての支所が取り組んだわけだが、2年目と1年目では当面の検討課題が異なるため、年度の前半は別々に会議を開催した。当年度開始の4地域のサポート運営委員会合同研修会を開催した後は2年目も1年目も合同で担当者会議を開催することを基本とし、必要に応じて別々に開催し、合わせて11回の会議を通じて情報の共有を図り、また地域福祉に関するアンケート（専門職等を対象）や中学生へのアンケートについて検討した。なお、19年度も既に事業計画やアンケートの集計結果を検討項目とした会議を開催している。今後は18年度までに全ての支所で立ち上げた地域サポート運営委員会（第3階層）と合わせて市サポート運営委員会（第2階層）をできるだけ早い時期に設置する予定である。

2. 各地域の特徴

それぞれの地域での特徴を簡潔に紹介したい。最初に17年度に開始した地域である。本荘は第4階層（小学校区）でのモデル地区の設置、由利は住民のニーズ把握と主体形成を目的とした地域懇談会の開催、東由利は早朝、夜間、休日でも対応できる携帯電話を活用した総合相談・生活支援センターの開設、西目は地域サポート運営委員会でのワークショップの導入などである。次に18年度に開始した地域である。矢島は老人クラブとの連携によるいきいきサロン活動の実施、岩城は通所介護事業所の機材を活用した介護予防のための健康づくりの推進、大内はニーズ把握や関係者の連携強化を図るための小ネット連絡会の開催、鳥海は地域サポート運営委員会でのアンケート結果の分析と対応策の検討などである。なお、本荘と西目は担当者による記事も併せて掲載したのでご参照いただきたい。

3. 今後の課題 ～ 普遍性と個別性の双方の追求に向けて～

由利本荘市社協は合併し、またトータルケア推進事業に着手し3年目になるが、まだ旧市町社協の事業を踏襲する側面も残っている。もちろん人口は約9万人、面積1,209.04平方キロメートルで秋田県の面積の10.7パーセントを占め、県内一の面積であるため地域性も多様であることは言うまでもない。しかし、地域福祉とは何か、社協とは何かなど基本的なことながら実は難しいテーマを社協役員、委員、職員と一緒に議論し、由利本荘市社協のアイデンティティー（自己同一性）を確立し、その上でそれぞれの地域にあった活動を展開する必要があるのではないだろうか。トータルケア推進事業には地域福祉や社協の本質を考えるヒントが多くあり、また地域やクライアントの個別性を把握し、それを実践に活かすためのノウハウもある。今、由利本荘市社協には“由利本荘市社協としての普遍性”と“旧市町や集落・町内会、あるいは地域住民の個別性”の双方の追求が必要であるが、トータルケア推進事業はそのために動き出すきっかけを与えてくれたのである。

モデル地区を設置

由利本荘市社会福祉協議会本荘支所 山口恭正

【 モデル地区設置目的 】

本荘地域は、海岸に面した松ヶ崎地区や山間部の石沢地区、市街地の本荘地区など地域内での地区形態が多様であり、生活福祉課題も地区ごとに異なると考えられる。

本荘支所では地域全域を事業対象とせず焦点を絞る事により、より地域住民に密着した事業として展開するために、モデル地区を平成 18 年度より指定することとした。

【 モデル地区（小友地区）の概況 】

小友地区は本荘地区（市街地）と隣接した地区であり、小学校・保育園・JA・福祉施設（デイサービスセンター）が各 1 カ所ずつ、隣接地区境には中学校も存在する。また、日本海沿岸東北自動車道本荘インターチェンジの建設予定地区ともあり、近年では、新興住宅地も開発中である。

小友地区概要

人 口	1,846 人	一人暮らし老人	24 人
世 帯 数	503 世帯	寝たきり老人	18 人
65 歳以上人口	457 人	老人世帯	38 人
（内 80 歳以上人口）	154 人	認知症老人	6 人
高齢化率	24.75%	日中一人暮らし老人	19 人

【 生活福祉課題検討会（第 4 階層地区サポート委員会） 】

生活福祉検討会「小友地区を考える会」（第 4 階層地区サポート委員会）は、各町内会長・民生児童委員・JA・長寿会連絡協議会・小学校・保育園・警察・防災団体・行政等を構成員とし、地区内の生活福祉課題を発掘し、解決に向けての検討を行う。

【 現在までの経緯 】

第1回会議・・・社協事業と本事業の説明、検討会への協力依頼を行った。

第2回会議・・・参加者それぞれの立場・役職から「今、小友地区ではどのような事が課題となっており、住民が困っているのか？」をグループごとに協議し、生活福祉課題を浮き彫りにした。



第3回会議・・・第2回会議でグループごとに取り上げた生活福祉課題に対し、地域住民が主体となって解決できうるものを選択し、検討会全体で解決に向けて検討・協議を行った。

【 今後の課題 】

第3回会議にて選択された生活福祉課題の対応について、住民が主体であることを意識できるような事業展開を行いたい。

また、現在の地域サポート運営委員会では、本事業に対する事業内容の説明や周知、モデル地区事業の進捗状況の報告等となっている。今後、由利本荘市全域に設置される市サポート委員会と重複する点が多々ある。地域サポート運営委員会の位置づけを確認しつつ、本荘地域全体に発展するよう検討の必要がある。

西目支所トータルケア地域サポート運営委員会の取り組み

由利本荘市社会福祉協議会西目支所 伊藤久美子

トータルケアの指定を受けて3年目、西目支所サポート運営委員会が事業実施にむけていよいよ実践に入りました。

テーマは、トータルケア『ミニコミ便り』の発行と防災マップの作成！！

《これまでの経過》

- 1回目・・・平成17年11月8日 委嘱状交付・県社協の吉田常務の講演等
- 2回目・・・平成18年 2月3日 正副委員長の選出・実施計画の説明
専門職アンケートの実施
- 3回目・・・平成18年4月24日 専門職アンケート結果の報告
グループ協議（検討すべき地域課題の整理等）
- 4回目・・・平成18年8月23日 地域の課題の選定・対処方法についてグループ協議
- 5回目・・・平成19年2月14日 具体的な取り組みの決定
（ミニコミ誌の発行と防災マップについての協議）
西目支所だより5月1日号に合わせてトータルケア『ミニコミ便り』 1発行
トータルケアってなあに？ 西目地域での取り組みは？ これまでの経過、
地域サポート運営委員名簿の紹介、ミニコミ便り・防災マップの目指すもの
等が紹介されました。
- 6回目・・・平成19年5月23日 防災マップ完成までの年次計画と、『ミニコミ
便り』No.2発行にむけての相談

《ミニコミ便り・防災マップ作成の目指すもの・・・》

ミニコミ便り・・・「最近、町内でどんなことがあったかな？」 「合併してから、西目の話題がさっぱりわからん」。こんな声が多く聞かれます。そこで、トータルケア地域サポート運営委員会では西目支所だよりのなかに「ミニコミ情報コーナー」を作ることとし、西目のなかのいろんな情報をご紹介します。

- ・ 元気のでる話題～こんなに元気で長生きしているよ。仲間と楽しく活動してるよ。
- ・ ほほえましいスナップ～家族やお友達と楽しいひととき。ペット自慢。
- ・ 町内の伝統行事～祭り、年中行事 等

西目の情報がわかり、西目がもっと好きになり、西目に住んでて良かったなと感じていただける「ミニコミ情報」を目指します。

防災マップ作成・・・「緊急災害発生や救急事態発生」の際に関係機関や地域の住民が協力していち早く被害に遭われた方々を手助けするために、町内会長さんをはじめ、民生児童委員、地域消防団、駐在所等と協力して一人暮らしや高

齡世帯等をマークした地図を町内毎に作成し、いざという時に備えます。

《最後に・・・》

社協の仲間や人生の先輩達に色々教わりつつ、この話はどう展開していくんだらうとドキドキしながら過ごしてきた2年間でしたが、みんなの熱い思いがようやく形になろうとしています。どんなミニコミ便りと防災マップができるのか、これからが楽しみです。



グループごとに発表しました。



ポストイットを使って地域課題を整理しています。



第3回サポート運営委員会の様子
(出席者20名)



第4回サポート運営委員会の様子
(出席者19名)